

第2回 生物多様なごや戦略策定会議

ブレインストーミング まとめ

1. 今のなごやがかかえる課題

電線の埋設の遅れ
向井

横に広がる土地利用
加藤

街の自然がパーツ
流域のつながりや循環が切れてる
長谷川

条例（法律）都市計画
“生物多様性”の視点が
今は入っていない
長谷川

交通渋滞
巨大マーケット周辺
土屋

水・木・土の衰退
加藤

緑地の減少
→動植物の住処の消失
下田

生きものの生息場所として
田圃、ため池、河、里山の消失
矢部

夏場の高温 特に栄
土屋

外にいて楽しくない
車と緑・水
小林

名古屋城しかない
安田

生物多様性の低下が
とめられない
下田

外来生物の増加による
生物多様性の損失
矢部

つながりが見えない
千頭

景観意識の乏しさ
海津

住をどうするか
内木

失われてしまった「自然」
水域・生息場
辻本

ものづくり偏重
ソフト軽視
向井

人との（近所）
連携
土屋

民主主義になってない
他人任せ
長谷川

流域圏

エネルギー・資材の自給率 = 美しい景観
広田

「自然共生」
（生物多様性の
ひとつのヒント）
の意識は？
辻本

自然環境に対する
意識が薄い
長谷川

日本らしい
市民参加の方法
広田

源流の山（水）づくり
誰が担うのか
内木

食の自給率 = 美しい景観
広田

生物についての情報の収集
分析・発信の場がない
矢部

子どもたちに森づくりを
伝えられるか・・・
内木

里山的文化振興
美意識の育成
広田

自給率に対する意識
食文化が単一化
長谷川

基本情報の
見える化
千頭

基礎情報がないため、
実効性のある戦略を
立てようがない
芹沢

大人~子どもの無関心（知らない）
下田

生物多様性に関する情報蓄積体制がない
芹沢

市民・市政の
「なごやの望ましい姿」
の認識が・・・
辻本

2. 100年後のなごや

「自然」に責任を持った都市づくり
(土地、資源利用が工夫されている)
堀川型だけでなく庄内川型

辻本

駅そば再生
自然再生

加藤

技術力と環境保全
持続可能な利用が
人口減、国際貿易を前提とした
コンパクトインターナショナルシティ

香坂

=ハード面=
質の高い緑でつながり
守るべき自然、保全すべき
自然のゾーニングがきちんと
されている

(豊かな自然の中に都市がある)
長谷川

都心：街路樹の陰でオープンカフェ
郊外：豊かな自然

小林

まず50年後を考えよう
海津

20年後 ハッチョウトンボ
40年後 両生類、は虫類
100年後 フクロウ

安田

自然が身近にあり、
それを楽しむコミュニティーが
形成されている。

向井

開発、物づくりをベースダウンしよう。
文化を成熟させ、
自然風土、文化財を楽しめる
味わえる社会が形成されると良い

矢部

アーティストによる
日本らしい季節・暦の行事・文化を
自給する新しい里山

広田

学校教育内で生物のつながり方を教える
土屋

三世代が同居する暮らし
<20年後>

安田

流域連携→流域が一つの単位
内木

情報がなく戦略も立てられ
ないから、このままではなる
ようにしかない。
最低限この状況から脱出したい
芹沢

生きもの大好きな子ども
「生物多様性を
知ってます！」

下田

=市民意識=
自然環境保全として
身近な自然にも目を向けることが
当たり前になり行動も伴っている
長谷川

3. 100年後に向けた戦略

戦略：楽しくてワクワクするビジョン
当面のアクション：見える化（シンボル） 小林

“Backcasting”の戦略 フレキシブル
大きな「循環」を取り戻す 辻本

ゴンギツネやフクロウと暮らす
ことのメリットを明らかにする。
名古屋城以外に誇れる東山の
自然をブローニュの森のようにする。
名古屋と日本の都市の連携、
世界の都市との連携をとり
新たな自立と共生する文明を創造する
安田

× 100年前の環境の豊かさ
× 今の利便性
→ バランスを考えて100年後に向けて、
何がとり戻せて、何を残し
何をあきらめるか
香坂

新しくて派手な生産（建築）
活動はもうやめましょう。
壊すべきものは壊して自然に戻し、
今ある使えるものを使いましょう。
人口が半減し、高齢化する都市
に見合った施策を考えましょう
矢部

地域の特性を踏まえた
自然の保全と再生
海津

土地の付加価値向上
（緑化木ある場所の税制見直し等）土屋

代議制民主主義とNPO育成の整理
向井

なぜ？ WHY？
だれが？ WHO？
どうやって？ HOW？
→ 伝統の活用？
下田

自然多様性を価値と考える文化の育成 向井

環境教育
（意識変革）に対し投資“業”
となるシステム構築
生物多様性を軸にした条例の見直し
長谷川

ムーブメントを作る
新しい里山なごやをデザイン
文化人巻き込み
デザイナー、ミュージシャン、建築家など
広田

木使い運動
～山づくり、水づくり、人づくり～
流域のいろいろな種類の木を
使って家を建てる。
公共施設は全部木造。
町内会に木育塾（寺子屋）
（昔の生活を学ぶ）
上流へ行く、
野外教育センターの活用
内木

自然史博物館を作ること。
芹沢

町内会など自治会による
生物多様性なごや戦略（寄り合い会議）
広田

市民を励ます
北風よりも太陽を 加藤

《生物多様なごや戦略策定会議の論点整理》

3つの戦略イメージ

1

自然の摂理に即した

まちづくり

地球の営みと
人の営みの調和

コンパクトシティ
空地に自然再生

など

2

風土に適した

くらしづくり

歳時記、文化...、
衣食住のみなおし

ムダのない消費
水や資源の循環

など

3

いのちのつながりを感じる

ひとづくり

恵みに感謝する心の育成

普及啓発・環境教育
地域・流域の連携

など